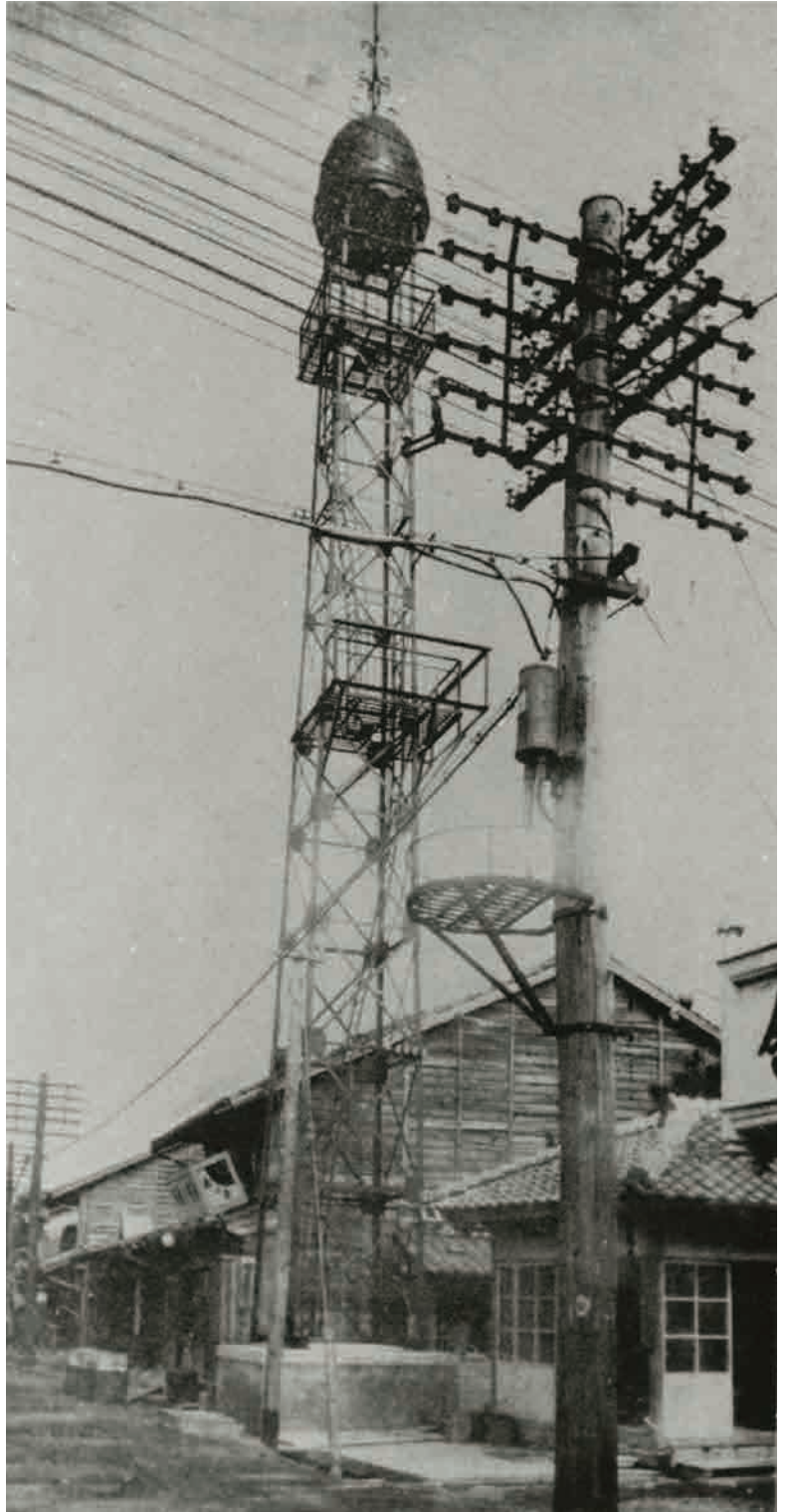


懐かしの
アルバム鉄骨製の火の見櫓^{やぐら}

東海道沿いの浜松市中央区田町の四つ角から北田町に通じる道があります。その中間にあたる尾張町の角に、鉄骨製の火の見櫓がありました。火事を警戒したり、火事の方向や距離を見定めたりするために建てられたもので、当時は多くのものが木造でした。しかし、時代が進むにつれて、大規模な櫓の建設計画が進み、大正14年に尾張町の四つ角に造られたのが、写真の火の見櫓で、高さ20mにも達していました。その隣には信仰の拠点として庚申堂があり青面金剛像が祀られていました。櫓の横に電話線を張り巡らせた電信柱が建っていますが、火の見櫓の方がはるかに高く避雷針も付いています。櫓の横の平屋建ての建物は浜松警察署の尾張町交番です。鉄骨の火の見櫓は、市内海老塚町の渥美鐵工所で造られ、数個に分解され運んできました。渥美鐵工所は以来、火の見櫓のメーカーとして業界で知られました。



(資料提供©神谷昌志)

おいしいをつくりましょ。


 JAとぴあ浜松